

# LMCマルチコントロールモード スタートアップガイド

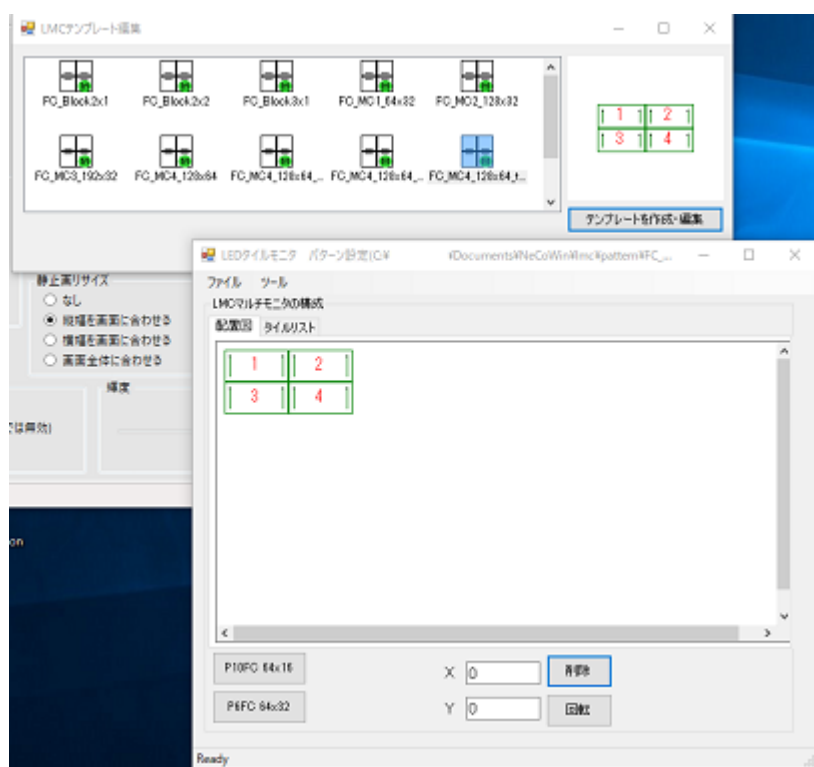
以下の手順で、LMCのマルチコントロールモードを開始し、大型モニタとして使用することができます。

## 1.LMCをLANでルータに接続する

LMCに装着されているRaspberryPiを、LANケーブルでルータに接続します。  
途中にハブを経由させても構いませんが、複数のルータを噛ませると、DHCPが正常に動作せず、マルチコントロールに失敗する可能性があります。

## 2.NeCoWinでマルチテンプレートを作成する

『NeCoWin』で、マルチコントロールモードに参加するLMCパネルの数と種別、それぞれの配置を決定します。  
レイアウトが決まったら、わかりやすい名前をつけて、ドキュメントフォルダの「NeCoWin/lmc/pattern/」フォルダの中に格納してください。  
ここで作成したテンプレートファイルを、[マルチテンプレート]と呼称します。

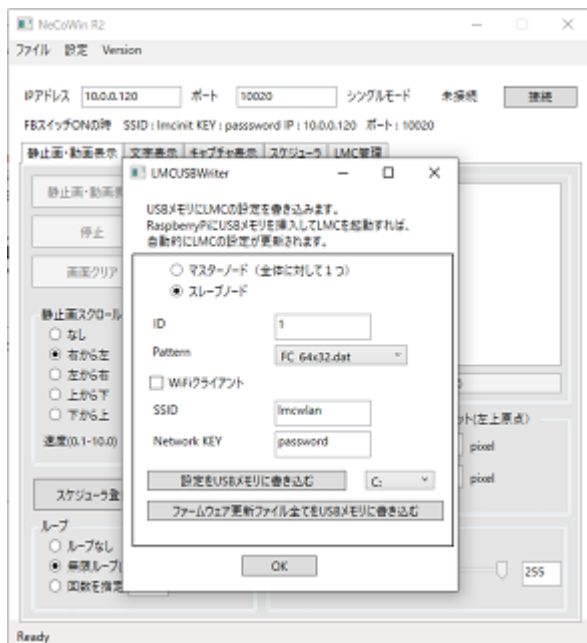


## 3.USBメモリでマスターノード設定を書き込む

まず「マスターノード」の設定を行います。

USBメモリをPCに差し込み、『NeCoWin』の[設定]→[LMC設定用USBメモリ書込]ボタンをクリックしてください。

『LMCUSBWriter』ウィンドウが開かれます。



[マスターノード]にチェックを入れ、[ID]の項目に「1」（マルチテンプレートで一番小さいIDを1以外にしている場合は、その値）を入力してください。

[設定をUSBメモリに書き込む]ボタン右の[書き込み先ドライブ]を、挿入したUSBメモリに設定してから、[設定をUSBメモリに書き込む]をクリックし、設定ファイルをUSBメモリに書き込みます。

設定を書き込んだUSBメモリを、マルチテンプレートで先ほど設定したIDにあたる位置のLMC（以降これを[マスターノードLMC]と呼称します）のRaspberryPiに差し込みます。

USBメモリの挿入を確認したら、そのLMCの電源を切り、再起動を行ってください。しばらく起動を待って、画面に設定したIDが表示されたら設定成功です。

#### 4.USBメモリでスレーブノード設定を書き込む

引き続き、マスターノードに従い画像を表示する「スレーブノード」の設定を行います。

設定の終わったマスターノードLMCから設定用USBメモリを引き抜き、PCに挿入してください。

『LMCUSBWriter』の[スレーブノード]にチェックを入れてから、マルチテンプレートで設定されているID（たとえば「2」）を[ID]の項目に設定して、先ほど同様にUSBメモリに設定ファイルを書き込んでください。

この設定を書き込んだUSBメモリを、マルチテンプレートで設定した同じIDの場所に設置するLMCに挿入し、電源を入れ直してください。画面に指定したIDが表示されれば成功です。

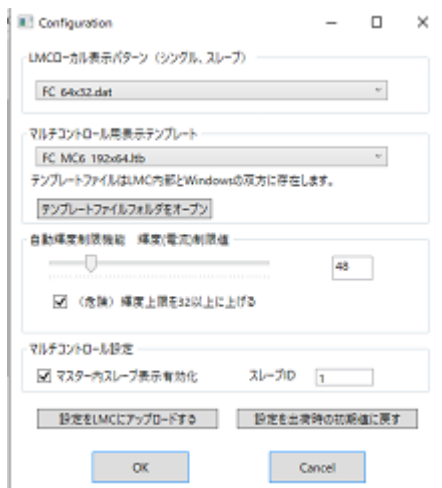
この作業を、マルチテンプレートで指定したIDの数だけ繰り返してください。

以上の作業は、以後シングルノードモードとマルチコントロールモードを切り替えるだけならば、再設定は必要ありません。

## 5. 『NeCoWin』でマスターノードに接続する

マルチコントロールモードに『NeCoWin』を切り替えるには、[設定]→[LMC接続設定]で、[マルチコントロール用表示テンプレート]欄で、マルチテンプレートを指定します。

2. で作成したマルチテンプレートファイルを指定してください。



テンプレートの指定が終わったら、マスターノードLMCの電源を入れて、『NeCoWin』の[接続]ボタンをクリックしてください。『NeCoWin』が自動的にマスターノードLMCを検索し、接続を行います。

接続が成功したら、マルチコントロールモードでの動作が開始しています。

なお、シングルノードモードに戻す場合は、[マルチコントロール用表示テンプレート]欄を[シングルノードモード]に指定して、LMCへの再接続を行ってください。